

# 「高等教育行政対策委員会」

## 1. 構成員

### 1) 委員

委員長：麻原きよみ（大分県立看護科学大学）

委員：石橋みゆき（千葉大学大学院）、加藤典子（獨協医科大学）、  
鎌倉やよい（日本看護系大学協議会）、岸恵美子（東京医療保健大学）、  
洪愛子（神戸女子大学（日本私立看護系大学協会））、細田泰子（大阪公立大学）、  
宮本千津子（東京医療保健大学）

### 2) オブザーバー

堀内成子（JANPU 代表理事・聖路加国際大学）

## 2. 趣旨

大学における看護学教育の課題解決と質向上を推進するために、本委員会では以下の活動を行う。

### 1) 関係省庁、諸団体との連携を図り、政策的な働きかけを行う。

- ・文部科学省、厚生労働省、自民党看護問題小委員会等と連携し、要望書の作成と提出を行う。
- ・看護関連の検討会に意見発出を行う。
- ・社会情勢の動きを把握し、必要時日本看護協会等関連団体と協働する。
- ・適宜、声明や提言案を作成し発出する。
- ・看護系議員と連携し、看護学教育の課題解決を図るための方策を検討する。

### 2) 会員校の教員に対し、Academic Administration の質向上を図る。

- ・大学教育・看護学教育に関する情報提供を行う。
- ・大学の経営、運営管理、組織、戦略の立て方等についての情報提供を行う。
- ・会員校より看護学教育の質向上に関する調査を実施し、看護学教育の課題を抽出する。
- ・中央教育審議会の改正や大学改革の方向性など、会員校に有益な新たな情報をタイムリーに発信する。

## 3. 活動経過

委員会を 2025 年 6 月 13 日（第 1 回）、9 月 2 日（第 2 回）、2026 年 1 月 20 日（第 3 回）、3 月 3 日（第 4 回）、いずれも WEB で開催したほか、必要時、メールでの意見交換を行った。

### 1) 関係省庁、諸団体との連携を図り、政策的な働きかけ

#### (1) 2026 年度概算要求に向けた要望書の提出

- ・2025 年 4 月 3 日に文部科学省に提出
- ・2025 年 4 月 16 日に自民党看護問題対策議員連盟に提出
- ・2025 年 5 月 30 日に要望申し入れに向けた 5 者面談（自民党石田昌宏議員、自民党友納理緒議員、日本看護系大学協議会、全国助産師教育協議会、全国保健師教育機関協議会、文部科学省、厚生労働省）

#### (2) 日本看護協会等関連団体との協働

### 2) Academic Administration の能力向上への取り組み

#### (1) 「新たな認証評価」に関する研修会の開催

2025 年 2 月 21 日、中央教育審議会から「我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システ

ムの再構築～」(答申)が発出された。本答申では、大学進学者の急速な減少などに伴い、高等教育機関の規模の適正化(再編・統合・縮小など)が推進されるとされている。また、現行の認証評価から学修者本位の新たな評価制度に移行するとされている。本答申は、わが国の高等教育の方向性について大きな変換を求めるものであり、今後の大学運営や看護学教育に多大な影響があると推察される。

そこで、本答申についての理解を深め、今後の大学運営等について考える機会を提供する目的で、山口県立大学学長であり、第13期中央教育審議会委員である田中マキ子先生の講演をオンラインで行った。

研修会テーマは、中教審答申「我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システムの再構築～」一看護系大学への影響と今後取り組むべきこと一であった。当日は260名の視聴があった。講演後には、活発な質疑応答がなされた。当日の研修会はオンデマンド動画として、JANPUホームページの会員校専用ページに掲載し、いつでも閲覧できるようにした。

終了後に聴取したアンケート結果については、「5.資料の1)」を参照されたい。

## (2) JANPU FD ミニマムシリーズの更新の検討 <https://www.janpu.or.jp/fd/>

本シリーズは、アカデミック・アドミニストレーションの観点から、会員校の教職員が共通に理解しておくことが望ましい事項について、会員校がFD等に活用できる資料として、2021年より提示している。2025年度は、昨年度のAcademic Administration研修会の内容を再整理し、FDとしての問いかけを加えた「教学マネジメントに対する理解を深める」を新たに追加した。加えて、既存のミニマムシリーズについては、制度の変化の観点から内容を検討し、アーカイブとして保存することとした。

今後は、中央教育審議会の答申等に関する理解を会員校に促し、教育の質保証への取り組みを支えるため、教育行政の動向や大学の経営・運営管理等に関する情報について、時機を捉えた発信を継続していく必要がある。

## 3) DNP コース設置に関する調査と研修会の開催

### (1) DNPに関する調査

近年、博士課程にDNPコースを設置する大学が相次いでいる。CNSやNPなど高度実践看護師等の増加を考えると、今後DNPコース設置校が増加することが予想される。そこで、会員校のDNPに関する認識や設置意思、必要とする情報等を把握し、DNPコースに関するJANPUとしての対応を検討する目的で会員校への調査を実施した。会員校(307)へのGoogle formによる調査を行い、回答数266校(重複校などの数調整含む)、回答率86.6%であった。(調査結果一覧1参照)

#### 結果の概要

##### ①回答大学の概要

DNPを知っていると回答した割合(認知度)は89.6%、DNPコースに関心があると回答した者の割合(関心度)は55.2%であった。

回答大学266校のうち、博士前期課程を設置している大学は207校、博士後期課程を設置している大学は143校であった。

##### ②DNPコースの設置状況

博士前期課程では、研究者コースと上級実践コースの両方を置く大学は125校、研究者コースのみの大学は67校であった。一方、博士後期課程では、研究者コースを置く大学は138校、DNPコースのみの大学は1校、研究者コースとDNPコースの両方を置く大学は4校であり、博士後期課程は研究者養成を目的としている状況が明らかになった。

DNPコース設置の予定については、225校(85%)が設置の予定はないと回答した。設置予定は4校、

検討中は 30 校であった。

### ③DNP コース設置予定及び課題

DNP コースを、すでに設置している、3 年以内に設置予定、検討中と回答した 39 校に設置にあたり課題となることを複数回答で尋ねたところ、最も多いのは「教える教員の不足」、次いで「カリキュラムの作成」「大学内の合意形成」「設置の手続き、進め方」であった。

### ④DNP コース設置にあたり必要な情報および JANPU に期待する支援

DNP コース設置に向けて、「モデルとなるカリキュラムの作成・科目内容」「教える教員の要件」「モデルとなる DP, AP, CP」に関する情報を求めている大学が多いことが明らかとなった。

また、DNP コースについて、日本看護系大学協議会（JANPU）に期待することは、「需要に関する調査」「モデルカリキュラムの作成・提示」のニーズが高く、次いで「コース設置までの手続き等プロセスに関する提示」を期待されている状況であった。

### ⑤自由記載のまとめ（43 件）

#### 【JANPU に求めるもの】

「DNP コースのカリキュラム作成や運営に関すること」「DNP コース設置に向けた研修会などの提供」「情報提供」「修了生に関する情報提供」「DNP コース設置校の現状と課題に関する情報提供」「DNP・DNP コースの PR、認知の向上」があった。

#### 【DNP コース設置における課題】

「大学内で理解が得られない」「担当できる教員の確保」「財政面」「現状で手一杯」という意見が寄せられた。

#### 【DNP コースについて検討が必要な事項】

「DNP と CNS、NP の位置づけ・資格取得との関係」「DNP と上級実践資格（NP）との関連について」「（まずは）CNS、NP についての課題検討が必要」「DNP の高度実践能力の明確化」「DNP コースの目的の明確化」「DNP コースの特色や取得することのメリット」があった。その他の意見として、「世の中の動向を見て導入を決めたい」「他国の制度を日本の文脈でどのように浸透させていけるのか」「そもそも（看護系）大学院のレベルの維持向上が課題」などがあった。

以上より、回答大学で博士後期課程を設置する大学の 85%は、DNP コースの設置の予定はないという現状が明らかとなった。一方、DNP コースを設置している、もしくは設置を予定、検討している大学は 39 大学あり、今後、設置にあたっては、カリキュラムの作成や担当する教員の確保が課題であることが明らかとなった。自由記載においては設置に慎重な大学の意見もあることから、DNP コースをすでに設置している大学の現状を共有する機会を設けるなどし、カリキュラムや教員の状況の詳細を共有する機会を設け、会員大学間の意見交換を推進する必要があると考えられる。また、今後 DNP コースの設置を予定している大学に対しては、DNP 教育課程の基準や方向性の提示、教員の要件の提示などが求められるだろう。

### （2）DNP コース設置校の取り組みに関する研修会の開催

2026 年 3 月 28 日に「DNP に関する調査結果報告と DNP 設置校の取り組み」として、各会員校に対して行った DNP に関する調査結果を報告し、また 2017 年からわが国で初めて DNP コースを設置した聖路加国際大学大学院看護学研究科研究科長吉田俊子先生に、カリキュラムや指導体制など DNP コースの概要と課題等についてご講演いただいた。特徴であるプロジェクト研究を進めるにあたっては、1-2 年目にプロジェクト研究のベースとなる科目を積み上げる。計画を練り上げていく過程では現場の指導者や組織の運営に権限をもつ管理者らの協力が必要であり、教員と連携した領

域を超えた指導体制がとられている。DNP コースの院生は現場での勤務を継続していることが原則である。修了後もエビデンスに基づいた現場の改革等を継続発展させることにつながり、DNP コース修了への満足度は高い。教員は PhD コースと DNP コースの両方を担当することの困難はあるが、教員にとっても学びが大きい。講演の最後には、今後 DNP 教育課程が増えることを期待していると述べられた。

当日は 250 名の参加があり、質疑応答では教員要件と卒業後の環境づくりへの大学教員の関与、カリキュラム構築での困難について、質問があった。

「指導教員の要件」について、博士後期課程であるので後期課程を担当している教員が担当している。PhD コースの両方を担当している。プロジェクト研究を進めていく上で、教員が領域を越え特論など分担、プロジェクト研究を進めていく際には、DNP 担当教員と組織と現場の課題を理解している現場の管理者が臨床教授となり、連携して指導している。

「修了後の現場での活動や裁量について環境を整えることを教員がサポートしているか」については、DNP コース修了者への修了後の環境は、大学から働きかけてはいない。組織の中で修了生が主となって検討がされている。プロジェクト研究に現場の管理者が関与していることもプラスになっている。

「DNP のカリキュラム構築」にあたって、アメリカのプログラムなど参考にしつつ、日本の現状に取り入れられるよう工夫した。米国の DNP コースで教育されている先生方を集中講義に招くなど、継続的に時代に即した形に変化させている。

#### 4. 今後の課題

関係省庁への要望書の提出等はタイムリーに行う必要がある。また、実際に看護学教育の質向上に関わる具体的で、かつ財政的支援に関わる提案をする必要がある。提出前には関係各課への説明と意見交換が必要である。また、要望書は看護系議員や日本看護協会へも情報提供し、複数の団体とも連携をとることが今後も必要である。

令和 7 (2025) 年 2 月 21 日の中央教育審議会の答申「我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システムの再構築～」(中教審第 255 号)で示された「新たな認証評価」や地域連携プラットフォームおよび大学間連携等について大学に情報提供するとともに、看護系大学への影響の把握および対応の検討等をしていく必要がある。

DNP に関する会員校の調査では、今後 3 年以内に 4 校が DNP コースの開校を計画しており、さらに約 30 校が開校を検討していることが明らかとなった。理事会において、博士後期課程に DNP コース設置を推進する方向性が承認されたことから、今後は、設置大学への調査や CNS、NP 修了生・在学生のニーズ調査、看護管理者の意向調査、カリキュラムや教育体制などの情報提供、標準的カリキュラムの検討などを開始する必要がある。

#### 5. 資料

##### 1) 新しい認証評価に関する研修会における事後アンケート報告

Academic Administration 研修会「新たな認証評価」

日時：2025 年 11 月 11 日 (火) 13:00～14:30

目的：中教審答申「我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システムの再構築～」

本答申についての理解を深め、看護系大学がどう取り組んでいくのか今後の大学運営等について考える機会を提供する

場所：オンライン (ホームページ掲載+オンデマンド配信)

講師：山口県立大学学長 田中マキ子先生 (公立大学協会副会長、中央教育審議会委員)

研修会テーマ：中教審答申「我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システムの再構築～」

—看護系大学への影響と今後取り組むべきこと—

**【事後アンケート結果】**

①とりあげたテーマは適切であったと思いますか。

- ・おおいにそう思う 180 件 (82.2%)
- ・まあまあそう思う 39 件 (17.8%)

②本日の内容は有意義であったと思いますか。

- ・おおいにそう思う 181 件 (82.6%)
- ・まあまあそう思う 36 件 (16.4%)
- ・あまりそう思わない 2 件 (0.9%)

③本日の研修方法（オンラインによる講演・質疑応答）は適切であったと思いますか。

- ・おおいにそう思う 184 件 (84.0%)
- ・まあまあそう思う 35 件 (16.0%)

④研修の時期は適切であったと思いますか。

- ・おおいにそう思う 133 件 (60.7%)
- ・まあまあそう思う 81 件 (37.0%)
- ・あまりそう思わない 5 件 (2.4%)

⑤その他、本日の研修会についてのご意見、ご質問等がございましたらご記載ください。(77 件)

**1. 教育の質・教育方針に関する意見**

- 教育の質の担保には日々の振り返りと創意工夫が求められる。
- 国家試験合格率だけでは看護教育の質は測れない。
- 教員にもレジリエンスが必要。
- 教育・研究を 10 年先を見据えて行う必要性を感じた。
- 教員定員数が設置基準に対して少ない。

**2. 大学間連携・共同講義に関する意見**

- 大学間連携科目の質疑応答が興味深かった。
- 他大学との共同講義は魅力的で、学生の学びの幅を広げる可能性がある。
- 都道府県を超えた連携は可能か？
- 私立大学間での連携は難しいと感じる。
- 業績ポイント制度が大学間連携を阻害している。

**3. 評価制度・認証評価に関する意見**

- 機関別評価と分野別評価の在り方が気になる。
- 分野別認証評価項目が決まっているか知りたい。
- 保健師課程のみでも評価対象になるか？

**4. 地域連携・地域プラットフォームに関する意見**

- 地域プラットフォームの利用の具体が参考になった。
- 地方大学の振興に向けた取り組みの必要性を感じた。
- 地域で看護を育てるモデル大学を目指したい。

- 大阪のような都市部では地域プラットフォーム設置が難しい。

#### 5. 学生支援・学生の質に関する意見

- 看護を志向しない学生への指導が難しい。
- 若手教員や今どきの学生への支援が課題。
- 看護職の資質や倫理観の育成が重要。

#### 6. 研修会・講演への感想

- 「とても分かりやすかった」「有意義だった」との感想が多数。
- 中教審の委員による講演が具体的で理解が深まった。
- 資料を教授会で共有し、全教職員に伝達予定。
- 認証評価について継続して研究会を希望。
- 実習指導のため参加できない教員が多く、オンデマンド配信がありがたい。

#### 7. 質問・確認事項

- 遠隔授業の上限単位数が無制限になったのは大学間連携に限るか？
- DP（ディプロマ・ポリシー）との対応についての工夫は？
- 地域研究教育連携推進機構の進め方がイメージできない。

⑥今後の研修会へのご希望（テーマ、開催方法、等）がございましたらご記載ください。（28 件）

#### 1. CBT・OSCE 関連

CBT についての方針や取り組み、OSCE、CBT の実際についての研修会

#### 2. 教育成果・評価

学修成果・教育成果の把握・可視化、出口での評価についてもっと学びたい  
認証評価について、分野別評価について、大学機関別評価と分野別評価の今後の方向性

#### 3. 国の方針・社会動向

看護学の高等教育に関わる国の方針や施策、社会の動向  
国のその後の検討状況の情報提供  
最新の情報提供を今後も希望

#### 4. 看護学教育（含、モデル・コア・カリキュラム）

看護学教育モデルコアカリキュラム（11 コンピテンシー）に準じた看護学実習評価の再構成  
現代の青年期の学生への教育・実習指導（ハラスメント対策など）  
ChatGPT や生成 AI の活用方法

#### 5. 大学間連携・地域連携

大学間連携（連携開設科目）の事例紹介  
地域構想推進プラットフォームや地域研究教育連携推進機構の事例  
地域連携プラットフォームの先進事例紹介  
地方大学におけるオンライン研究の有効性

#### 6. 学生・受験状況調査

全国学生調査とプログとの違い、共通評価項目

全国看護学部の受験状況（受験生確保低迷）の分析

#### 7. 開催方法・形式の要望

オンラインまたはオンデマンド開催希望、Zoom 開催希望、後日配信や報告の希望  
Web 開催希望

#### 8. 参加者の感想・要望

研修内容が分かりやすく人材育成に役立つと感じた  
今回のテーマは継続して研修したい

2) 博士課程 DNP コースに関する会員校調査結果報告（調査結果一覧 1 参照）

<https://doi.org/10.32283/rep.ca996913>